

ゲートウェイ バイブル アカデミー 18th, March

主からの使命を見定めよ (パート1)

はじめに

第1週と2週では、クリスチャンリーダーシップの一般的なことについて見てきました。

クリスチャンリーダーシップの全体像を幅広く'筆さばき'してみました。今日は、少し具体的なものに入っていきます。

手始めに、主がどんな使命をあなたに期待しているか、見定める必要があるということです。

主がいまの奉仕を続けてほしいとあなたに願っているのに、何か新しいことを始めなければと思うのは、間違いです。

どちらにせよ、主からの使命を見定めることは重要です。

主の使命、第一は、悔い改め、イエス・キリストを信じ、主の救いを受け取る事です。

そして、次の使命は、主に奉仕する事です。

それぞれ、いろいろな方法で主に奉仕するのです。

ローマの信徒への手紙12章1-2節は、地獄から天国へと私たちが救ってくださった主の慈悲と恵みに応えるため、私たち自身を'生きたささげもの'として捧げることを思い出させてくれます。

その主への応答として、特別でユニークな方法で主に仕えるように、あなたも私も呼ばれているのです。

ローマ書12章は続きます。

「このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。」

(ローマの信徒への手紙12章6-8節)

したがって、リーダーになることは、どのレベルであっても、主からの賜物なのです。

主に呼ばれリーダーとしての職務に置かれることは、時として驚きでもあります。

思い出してください。もし主に任命されたのなら、シチュエーション・絶好の時期のために主が必要なものを備えてくださいます。

バックグラウンドや経験にかかわらず、主に呼ばれることもあるでしょう。
主がデイヴィッドをイスラエルの王に呼ばれるとは、誰が考えたでしょう。

彼の経歴も経験も、正反対のものでした。
王家の家系でもなく、王になる教育も受けていなかったからです。
ベツレヘムにある田舎の、7人兄弟の末っ子の羊飼いでした。
主は、驚きを与える神様なのです。

しかし、主が何の使命を下さろうとしているか、どうやって認識したらよいでしょうか？

あなたは、どんな'SHAPE'？

今週と来週とで、違うアングルから、このトピックを見ていこうと思います。
最初は、'SHAPE'という頭文字にフォーカスしてみましょう。
この言葉は、リック・ウォーレンが彼の著書'A Purpose Driven Life'の中で紹介しました。
SHAPEは、1. Spiritual gift (霊的賜物) 2. Heart (心) 3. Abilities (能力) 4.
Personality (性格) 5. Experience (経験)
から来ています。
さて、あなたはどんなSHAPEでしょうか？
これは、手助けになる課題です。

霊的賜物

まず最初に、霊的賜物です。
「人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから、人によって生き方が違います。」
(コリントの信徒への手紙一 7章7節)
主は、統治していたときに、霊的賜物を彼の教会の上に与えました。
年齢やクリスチャンになった期間は問いませんでした。
新約聖書には、霊的賜物のリストが書いてあります。
すべて網羅していないようですので、いくつか付け足せると思います。

アルファベット順に、管理(コリント 12. 28)、使徒—今日では開拓者に相当(エフ
ェソ 4. 11)、霊を見分ける(コリント 12. 10)、

伝道師（エフェソ 4. 11）、励まし（ローマ 12. 8）、信仰（コリント 12. 9）、ほどこし（ローマ 12. 8）、癒し（コリント 12. 9、28）、助け（コリント 12. 28、ローマ 12. 7）、違う言語を語る力（コリント 12. 10）、知識（コリント 12. 8）、いつくしみ（ローマ 12. 8）、奇跡（コリント 12. 10、28）、牧師（エフェソ 4. 11）、預言（1コリント 12. 10、ローマ 12. 6）、リーダーシップ（ローマ 12. 8）、教育（ローマ 12. 7）、舌（1コリント 12. 10）、知恵（1コリント 12. 8）

聖霊に与えられた、これらの賜物をすべて、中身を出す時間もスペースも私たちにはありません。

いくつか重複するものもありますし、クリスチャリーダーシップなど、いくつか賜物が合わさり、美しい形で用いられるのです。

使徒パウロが書いた事を思い出してください。

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。

働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。

これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。」

（コリントの信徒への手紙一 12章4-6、11節）

聖霊によって、与えてくださるのは主です。

そして、誰一人としてうぬぼれることはできません。

教会がなにを必要としているか、主が一番ご存知なので、

その都度、分け与えてくださいます。

さらに、そうなさる目的は、教会を作り上げる事であり、

主ご自身が'どんなにいい人か'を誇示するためではありません。

霊的賜物は、奉仕のためであって、地位のためではありません。

主にしたがって、教会を成長させるためのものです。

ジェームス・ローレンスが彼の著書、'Growing Leaders（リーダーを育てる）'の中で、

霊的賜物を見分ける4つの方法を提案しています。

- 1) **振り返る** いままでのクリスチャンライフの中で、なにをしていたときが楽しかったですか？
なにがやる気をもたらしてくれましたか？教会で活動したことについて、だれかがポジティブな言葉をかけてくれたのは、いつですか？
おそらく一番大切なこと、主の祝福と実りを感じたのは、いつですか？
- 2) **見てみる** どんなことに情熱を感じますか？イエス・キリストに仕えるにあたり、なにに注目や興味を感じますか？
- 3) **眺める** 他の人たちは、何と言っていますか？あなたが信頼できる人々のフィードバックを考えて、あなたの霊的賜物を見分けてくれましたか？
- 4) **見渡してみる** あなたの教会には、どんな必要と機会がありますか？なにか一つミニストリーを選ぶとしたら、それは何ですか？

これら4つはガイドラインであって、絶対というものや変更できないものでは、ありません。

あなたの霊的賜物を認識するための枠組みをもたらしてくれます。

心

'SHAPE'の次の言葉は、'**Heart** (心) 'です。

クリスチャンとして、主と教会のための奉仕を考えると、なにが心に浮かびますか？

なにに情熱を感じますか？なにがあれば、朝、ベッドから出る気になりますか？

心と言うものは、やる気が沸き起こるところです。

心と言うものは、どんなに苦しくても、不便でも、あなたがのめり込むことができるものです。

なので、心のチューンを合わせて、なにが心の琴線に触れるか、自分自身に聞いてみるのが重要なのです。

ミニストリーに仕える人が2人いるとしたら、ひとは依存症の人々のサポートに情熱を傾け、もう一方の人は、休職中の人々のヘルプに回りたいというでしょう。さて、あなたには

、なにが心に浮かびますか？

能力

第3の言葉は、'能力'です。

得意なものは何か、ご自身に聞いてみてください。

なにができるかではなく、どうしてもこうしてしまうというものは、ありませんか？

それが、あなたが天から授かったものなのです。

性格と経験

最後の二つの言葉は、'性格'と'経験'です。

性格は一役買います。なにか決定を下すときに、あなたは論理的な人かもしれません。

もしかしたら、フィーリングでものを決める人かもしれません。

他の誰かが泥棒に入られてしまったときの事を想像してください。

それを聞いたとき、あなたはどんな反応をしますか？

'警察に連絡した？'新しく鍵を付け替えようか？'

まず、こう聞くかもしれません。

しかし、'ケガなかった？'誰かちゃんといたわってくれる人側にいる？'

と聞く人もいるかもしれません。

どちらにしても、本当に助けたいという気持ちは同じで、

ただ反応が違うだけです。

前者は、実質的なヘルプを申し出て、後者は、精神的なヘルプを申し出たのです。

あなたの性格は、賜物を表わしています。

あなたの経験は、身のこなしに出てくるでしょう。

ネガティブな事・ポジティブな事両方、いままでのあなたの人生で起こった事は、

あなたのユニークな経験なのです。

あなたの経験は、さまざまな度合いであなたを形作ったでしょう。

オルダス・ハクスリーは、このように書いています。

'経験と言うものは、なにが起こったかということではない。

過去に起こった事を、どう扱うかである。'

リック・ウォーレンは、'人生において、腹立たしく思った経験、後悔した経験は、

他者を助けるために、主が用いたいと思っらっしゃる経験なのである'

と言っています。

あなたの形は何でしょうか？

これは、魔法のように答えを導き出す、口先だけの常套句を意味するのではないと、念頭に置いていてください。

人生において、主の使命を見極めるときに役立つ、ガイドラインになるのです。

このアクロスティックにひとつ欠点または足りない解釈があるとしたら、

主の御言葉には、お召しがあるということです。

もし、クリスチャンリーダーがあなたの天職だとしたら、主は御言葉を通してあなたに語られます。

賛美歌作者は、言っています。

「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」（詩篇 119 章 105 篇）

イエスからの思し召し

主イエスは、どのように主からの使命を見極めたのでしょうか？

主イエスは、完全に人でした。彼から私たちが学べることはあるのでしょうか？

それは可能です。なぜなら、彼がベストな例だからです。

主イエスの人生の最初の30年は、彼の誕生が語られているのと、12歳のときの神殿での描写以外、目立たないものでした。

それでも、主イエスの天職がどのように発展していったのがわかります。

彼は、誕生から現在までいろいろな名前と呼ばれています。

メアリーとジョセフ（あまり彼のことは知られていませんが）は、彼を育てました。

いくつか彼に与えられた重要なタイトル・名前のうち、イエスがありました。これは、'救いの神'（マタイ 1. 21）という意味です。

イマニュエルは'主が私たちと共にある'（マタイ 1. 23）という意味があります。

東方の3博士が金、香、没薬の贈り物をイエスに送った事は、王位、司祭職、そして犠牲を意味します。（マタイ 2. 11）

ルカはその福音書の中で、ベツレヘムの広野の近くで天使が羊飼いに語った、主イエスのほかの名前を明らかにしています。

メアリーは、'心の中で'（ルカ 2. 19）羊飼いに語られたことをじっくり考え、やがて、主イエスに引き継ぎました。

生まれたばかりのイエスにあてはまる、'救い主'主キリスト'（ルカ 2. 11）という言葉

もあります。

そして、主イエスは、彼の天職を自覚しながら育ちました。

ルカの福音書の中に、イエスが12歳のときに神殿で見つかり、探していた両親にこう言った箇所があります。

「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」

(ルカによる福音書 2章49節)

イエスは、旧約聖書で巨大魚に飲み込まれたヨナが埋葬された場所に程近い、ナザレスという町で育ちました。

イエスの活動期間、人々にミニストリーを始める前、ヨナのお墓に足を伸ばし、どうしてヨナは天職を全うしようとしなかったのか、

イエスは振り返ったことでしょう。

主イエスは、使命に忠実でした。

主イエスが洗礼を受けたのは、彼が人々を助けるために、彼の天職を確認するために、この世に来たのだと認識したためでした。

これが、会衆ミニストリーの立ち上げで、それまでは公のものではありませんでした。

主イエスの洗礼の場面で、父なる神が、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。」(マルコ 1. 11)

と天国から言葉をかけ、御子なる主の天職を承認するのを見て取れます。

イエスは自分の使命を知っていましたし、それは天なるお父様に認められていました。

しかし、すぐにひどい試練に遭っています。

「さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダン川から帰り、荒野を四十日のあいだ御霊にひきまわされて、悪魔の試みにあわれた。そのあいだ何も食わず、その日数がつきると、空腹になられた。(ルカ 4章1. 2)

イエスの天命は本当だったので、聖霊の力によってガラリヤに戻りました。

そして次に何が起こったと思いますか？

使命に従って行動に移したのです。

主に与えられたミッションを始めたのです。

彼の人生30年、このミニストリーのために彼は形作られ、いよいよ主に任命されたことを実行し始めました。

このミッション初期のある日、主イエスはおっしゃいました。

「イエスは彼らに言われた、「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」（マルコ 1章38節）

そしてのちに、こうおっしゃいました。

「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」（マルコ 10章45節）

さらに、主イエスは他の人たちと使命を分け合いました。

マタイ10章には、イエスが権限を委譲し、12人の使徒に、彼の代わりに牧会を拡大するやり方を教えました。

結論

主イエスのご自身の使命をご存知でした。

あなたはどうかでしょうか？

イエスは認められ、そして試練にも遭われました。

天職について、他の人の確約をもらうことは重要です。

しかし、試練は覚悟しておいてください。

主に使わされるなら、主が備えて下さいます。

イエスは、天命を全うし、主に栄光と人々に救いをもたらしました。

自分の使命を見極めたなら、それに従って行動し、それについて何かしようと思いませんか？

どうか使命をムダにしないでください。

来週は、主の使命を見定めることについて、もっと考えていきます。

「御自身の国と栄光にあずからせようと、神はあなたがたを招いておられます。」

（1テサロニケ 2章12節）